

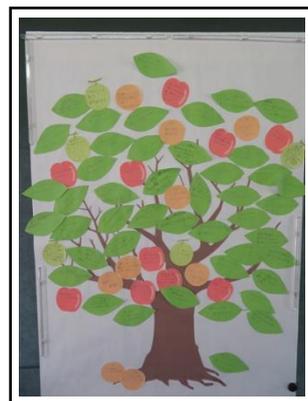
## 1 はじめに

本校は、小規模校のよさを活かした異学年交流活動の可能性の探究と自治的活動の活性化に向けて取り組んでいる。少人数だからこそ成し得る「一人一人が Only One の存在として輝く」という本校の教育目標の具現化を目指している。

## 2 資料

### (1) ありがとうメッセージの作成

友達や先生、先輩後輩など誰に対しても良いので感謝を伝えるメッセージを作成し、廊下に掲示した。これは、生徒会「みんなが楽しく学校に通って欲しい」という思いを受け、中央委員会による話し合いにより決定した。感謝を伝えるメッセージを書くことで一人一人の自己有用感の高まりも期待できる。



### (2) 体育祭

今年度は、昨年度同様に体育館で行った。広さに制限があるものの体育館だからこそできる種目を生徒が考案し、実際に行いながらルールを作成していた。また、練習段階から生徒は2つの団に分かれ競技の役割や順番などを、学年分け隔てなくみんなで意見を出し合いながら決めていた。少人数だからこそ、一人一人の役割が大きく生徒全員が大活躍となった体育祭であった。



### (3) 桐葉祭

今年の桐葉祭では今までとは違う、新しいことをしようということで、生徒発案の「部活動対抗クイズ」を実施した。初めて行う催しのため、実行委員が問題作成やルール説明、司会者となって盛り上げ役を担うなど大変忙しくはあったが、好意的な意見が多く聞くことのできる催しとなった。



## 3 成果と課題

### (1) 成果

- ・生徒主体の行事を取り組むことができた。
- ・生徒一人一人が役割をもつことができた。
- ・生徒が主体的に活動することで生徒の自己有用感が高まった。

### (2) 課題

- ・大規模な催しが困難であった。
- ・生徒数が少ないため行事等において生徒一人一人の負担が大きくなっている。